

DTP3PDF DTPデータ変換ソフト(PDF出力)



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

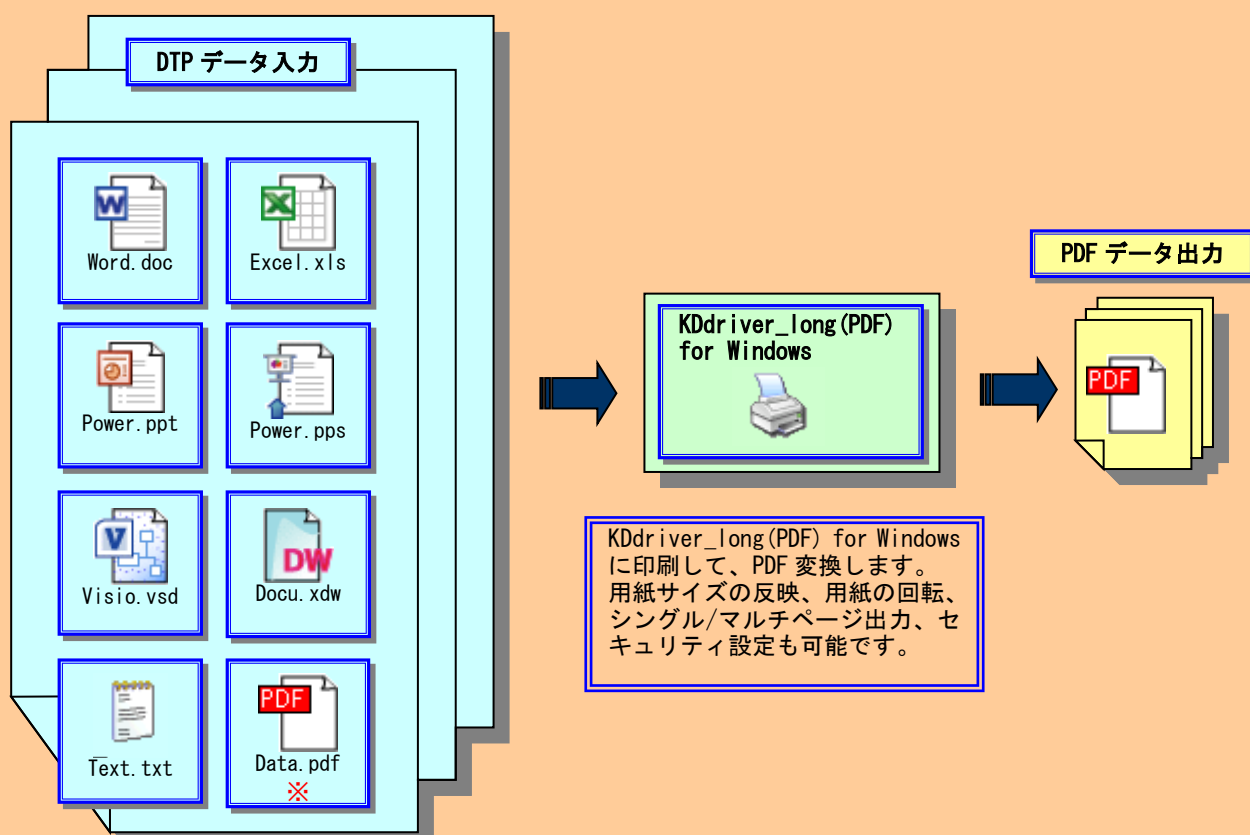
本社：パッケージ販売部
〒221-0056

横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル

TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501

URL：<https://www.kernelcomputer.co.jp>

DTP 各種のデータを KDdriver_long(PDF) for Windows で印刷することで、PDF データに変換します。



各種 DTP データを印刷するためのアプリケーションが必要です。

※PDF ファイルは印刷ではなくデータの編集のみ行います。

KDdriver_long(PDF) for Windows に印刷して、PDF 変換します。用紙サイズの反映、用紙の回転、シングル/マルチページ出力、セキュリティ設定も可能です。

◆特長

- ・ Windows プリンタドライバ(弊社製品 KDdriver_long(PDF) for Windows)を経由することによって、高品質な変換結果を得ることができます。
- ・ コマンドライン形式(DOS 操作)と GUI 形式(画面操作)の双方をサポートしたアプリケーションになっており、一つの製品で両形式使用することができます。システムへの組み込みや、標準機能としてバッチファイルを利用したフォルダ単位の一括変換が可能です。
- ・ オプション製品と組み合わせることによって指定フォルダにデータを送るだけであらかじめ設定された DTP データから PDF データへ自動的に変換を行う自動監視付き変換等が可能です。
- ・ Adobe Acrobat を使用しないため、Adobe Acrobat のライセンスが不要です。
- ・ DocuWorks データの用紙サイズを認識し、見た目上そのままに PDF へ変換することができます。
- ・ 印刷時にフォントを埋め込み、フォントの存在しない環境でも文字化けすることなく読み込むことが可能になります。

◆概要

各種 DTP データを必要なファイルフォーマット (PDF) へ変換します。

入力対応 DTP データ

アプリケーション	対応バージョン	ファイル種類 (拡張子)
MS-Word	2000/XP/2003/2007/2010/2013/2016/2019/365	doc, rtf, dot, txt, docx, dotx, docm, dotm
MS-Excel	2000/XP/2003/2007/2010/2013/2016/2019/365	xls, xlw, xjs, csv, xlt, xlsx, xltx, xlsx, xlsm
MS-PowerPoint	2000/XP/2003/2007/2010/2013/2016/2019/365	ppt, pps, pot, pptx, potx, pptm, potm
MS-Project	2002/2003/2007/2010/2013/2016/2019	mpp, mpt
MS-Visio	2000/2002/2003/2007/2010/2013/2016/2019	vsd, vss, vst, vsdx, vsdm
DocuWorks (FujiXerox)	6/7/8 (8.0.3 を除く)/9	xdw, xbd, xct※
XPS データ		xps
Internet Explorer	7/8/9/10/11	htm, html, xml

※上記バージョン以外のファイルについては正式に対応していません。

※閲覧用で無償配布されているビューアなどでは変換できません。

※Office データ変換処理に使用するアプリケーションは、Office 2019, Office 365, Visio 2019, Project 2019 は 64 ビットアプリケーションに対応しています。それら以外では 32 ビットアプリケーションをご利用ください。

※DocuWorks の入れ物(xct)を変換するには、DocuWorks 9.0.1 以降が必要となります。

※DocuWorks の電子印鑑無効化処理をおこなう場合は、DocuWorks Viewer Light も必要になります。

◆注意事項

- ・アプリケーションの印刷機能を利用してファイルを作成するため、変換するファイルに対応するアプリケーションが必要になります。閲覧用で無償配布されているビューアなどでは変換できません。
- ・出力に関するデータ処理はすべてアプリケーションに依存します。Microsoft Office でマクロ命令を利用して画面にダイアログメッセージを出力し停止するような場合や、セキュリティ機能によりパスワードを求めるダイアログメッセージを出力し停止するようなデータ等は、変換ソフトもその時点で停止するので注意していただく必要があります。
- ・DTP データ変換ソフトは WindowsOS の種類によって別製品になります。WindowsOS ごとにプログラムが異なるため、ユーザーがインストールする環境の OS に合った製品を購入していただく必要があります。
- ・64 ビット環境で 32 ビットアプリケーションとして動作します。
- ・動作環境は変換を行うアプリケーション (Microsoft Office, FujiXerox DocuWorks 等) の動作環境に依存します。
- ・FujiXerox 社製品 ApeosWare Flow Service には対応しておりません。

◆動作環境

対応 OS

Windows XP
Windows Server 2003
Windows Vista
Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2
Windows 7
Windows 8 / Windows 8.1
Windows Server 2012 / Windows Server 2012 R2
Windows 10
Windows Server 2016
Windows Server 2019

※文書ファイルの変換を行うアプリケーション (Office、DocuWorks 等) の動作環境に依存します。

◆必須コンポーネント

DTP3PDF をご利用いただく際に必要となるコンポーネントは以下のものです。

- ・.Net Framework 4 以降
- 「.Net Framework 4 以降」がインストールされていない環境では、DTP3PDF のインストーラでインストールします。

GUI 操作基本画面

◆GUI からの操作

- ・プログラムを起動すると下記 GUI が表示されます。変換に必要な情報を各項目に設定していきます。設定後、実行 (OK ボタンを押す) すると変換が開始されます。処理が終了すると、設定内容に従った変換結果 (ファイル) が出力されます。

KDdriver_long (PDF) for Windows

基本設定 | 詳細設定

プリンタ設定
KD Driver Long PDF Driver | KD Driver Long PDF Driver

ファイル名設定
入力ファイル名 | 参照
出力ファイル名 | 参照 フォルダを選択
ログファイル名 | 参照
XMLログファイル名 | 参照

ページ分割設定
 シングルページ
 マルチページ(全て1ファイル)
 マルチページ(ページ数指定) | 1

用紙サイズマージン
Yマージン | 5
Xマージン | 5

OFFICEバージョン等
バージョン | Auto
 PDF保存を使用

ファイル番号
開始 | 1
増加 | 1
桁数 | 1

PDF編集
 WEB用に最適化
用紙の回転 | 縦横を元の状態で変換
セキュリティの設定 | セキュリティ解除設定

解像度
 ドライバ規定値
 解像度指定
 入力データ(XDWP)
DPI | 300

PDF内の画像形式
 ドライバ規定値 | 画像形式 | FLATE | JPEG画質 | 75

実行 | 属性保存 | 閉じる

入力ファイル名
出力ファイル名
ログファイル名

用紙サイズマージン
用紙サイズを判定するときに使用するマージンを設定します。

Officeバージョン等
使用する Office のバージョンや、Office による PDF 保存を使用するかどうかを指定します。

解像度
文書内画像の解像度や座標値の精度を指定します。

ファイル番号
シングルページ出力や、ページ数指定のマルチページ出力時のファイル名に付加する番号を設定します。

PDFに編集を加えるかどうか
用紙の回転、セキュリティ設定などを行います。

シングルページ/マルチページの出力選択

コマンドライン基本操作

基本操作は、[プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]より、変換する入力ファイル名、出力ファイル名、変換に関する各種設定情報を入力して実行し、変換を行います。

>実行ファイル 入力ファイル -0出力ファイル -各オプション

〈例〉 入力ファイル(Sample_file.doc)を変換して、指定した出力ファイル(test.pdf)に出力。

実行フォルダに属性ファイル(drv_in.atr)が存在することを確認し、以下のように入力します。

```
C:>DTP3PDF Sample_file.doc -0test.pdf -Udrv_in.atr -LOGtest.log
C:>
```

(各パラメータについて)

DTP3PDF	: 実行ファイル名。
Sample_file.doc	: 変換元の入力ファイル名(入力に対応している DTP データ)。 この例では、Word データファイル。
-0	: 出力ファイル名を指定するオプション。
test.pdf	: 出力ファイル名(PDF)。
-U	: 属性ファイル名(初期設定:drv_in.atr)を指定するオプション。
drv_in.atr	: 属性ファイル名。
-LOG	: ログファイル名(初期設定:err.log)を指定するオプション。
test.log	: ログファイル名。

※ インストールパスが“c:\Program Files\dtp3pdf”の場合、〈基本形の例〉を実行されると、それぞれ指定されたファイルは、プログラム内部で以下のフルパスに置き換えられて変換を実行します。

入力ファイル名	: Sample_file.doc	→	“c:\Program Files\dtp3pdf\Sample_file.doc”
出力ファイル名	: test.pdf	→	“c:\Program Files\dtp3pdf\test.pdf”
属性ファイル名	: drv_in.atr	→	“c:\Program Files\dtp3pdf\drv_in.atr”
ログファイル名	: test.log	→	“c:\Program Files\dtp3pdf\test.log”

【DTP3PDF のコマンドラインからの操作における標準仕様】

- 変換に関する各種設定(出力フォーマット、シングル/マルチ化、解像度、等)は属性ファイルで行います。属性ファイルとはテキスト形式のファイルで、変換に関する各種設定情報を決められた項目に従って記述します。属性ファイル(テキスト形式のファイル)の編集の代わりに GUI(画面)から設定を行うこともできます。
- 使用するプログラムについてはカレントフォルダ(現在作業中のフォルダ)に対して相対/絶対パスで指定することができます。プログラムをインストールしたフォルダで作業する場合、パス名を省略できます。変換元ファイル(入力ファイル)、出力ファイル、属性ファイル、ログファイルについても同様の扱いとなります。
- 相対/絶対パスを指定する場合においてパス名に空白(スペース)がある場合には、“” (ダブルコーテーション)を使用してください。
- 「-0」は出力ファイル名を指定するオプションです。マイナス記号とアルファベットの「オー」です。大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。また、「-0」と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。その他のオプションについても同様に扱います。
- 変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じ名前を指定することはできません。
- エラー情報や変換状況をインストールフォルダにログファイル名(err.log)で自動的に出力します。

操 作 例

1. コマンドラインからの実行

例 1 : 絶対パスを使用して、任意の変換元ファイル“c:¥test¥infile¥Sample_file2.doc”を出力ファイル“c:¥test¥outfile¥test2.pdf”に変換して出力。

```
C:¥>DTP3PDF "c:¥test¥infile¥Sample_file2.doc" -O"c:¥test¥outfile¥test2.pdf"  
C:¥>
```

例 2 : 任意の属性ファイルを作成し、入力ファイル(Sample_file3.ppt)を出力ファイル(test3.pdf)に変換し、任意のログファイルにエラー情報や変換状況を出力。

```
C:¥>DTP3PDF Sample_file3.ppt -Otest3.pdf -Udrv_in_test.atr -LOG"c:¥log¥abcd.log"  
C:¥>
```

(各パラメータについて)

drv_in_test.atr : 任意の属性ファイル名。

"c:¥log¥abcd.log" : ログファイル名(絶対パスを指定)。

※任意の属性ファイルは、初期設定の属性ファイル(drv_in.atr)をコピーしてファイル名を変更したファイルや属性ファイルに使用されているパラメータを含む内容のファイルです。

例 3 : アプリケーションのバージョン情報を出力。

```
C:¥>DTP3PDF -QV -LOGver.log  
C:¥>
```

(各パラメータについて)

-QV : 実行ファイル名とバージョン情報を表示するオプション。

ver.log : ログファイル名。

※「-QV」と「-LOG」を同時に指定した場合は、指定したログファイルにアプリケーションのバージョン情報を書き出します。

例 4 : バッチファイルからの実行(フォルダ単位の拡張子による一括変換)。

バッチファイルで記述された内容の実行を実行します。

複数のファイルやフォルダ内のすべてのファイルを一括で変換する場合に使用します。

任意の名称(test.txt)で以下のようにバッチファイル(テキスト形式)を作成します。

・バッチファイルの内容

```
c:¥test_1¥*.ppt -Oc:¥out_1¥*.pdf -Udrv_in.atr -LOGc:¥log_1¥err.log  
c:¥test_2¥*.doc -Oc:¥out_2¥*.pdf -Udrv_in.atr -LOGc:¥log_2¥err.log  
c:¥test_3¥*.xls -Oc:¥out_3¥*.pdf -Udrv_in.atr -LOGc:¥log_3¥err.log
```

c:¥test_1 に存在する拡張子が ppt のファイルをすべて拡張子を pdf に変更したファイル名で変換します。拡張子 doc、xls についても同様の処理になります。処理の内容は同時に複数の指定を記述することができます。なお、ワイルドカード(*)が指定できるのは、入出力ファイル名のみとなります。

・コマンドライン入力と画面表示

```
C:¥>DTP3PDF -BATCHtest.txt  
C:¥>
```

(各パラメータについて)

-BATCH : フォルダ単位の一括変換を行うために使用するオプション。

test.txt : バッチファイル名。

※「-BATCH」で指定された任意のバッチファイル名(test.txt)の内容に従い処理を行います。

2. コマンドラインからの実行「標準入力、標準出力、標準エラー出力」

例 1 : 標準入力にて DOC データを渡し、出力ファイル名指定 (test.pdf) で PDF ファイルに変換し、標準エラーをテキストファイルに出力。

```
C:¥>DTP3PDF < abc.doc -0test.pdf 2> err.txt
C:¥>
```

(各パラメータについて)

abc.doc : 標準入力の Word ファイル。
-0test.pdf : 出力ファイル名を指定。
2> err.txt : 標準エラー出力をファイルに保存。

例 2 : DOC データを入力データとし、標準出力として PDF ファイルを出力。

```
C:¥>DTP3PDF in > out.pdf
C:¥>
```

(各パラメータについて)

in : 入力ファイル名。
> out.pdf : DTP3PDF の標準出力を out.pdf に出力。

(注意事項) 属性ファイルで指定する拡張子と標準入力ファイルのファイル形式が異なる場合、正常に処理することができませんのでご注意ください。

変換機能

主な変換機能として、以下の設定を行うことができます。

これらの変換機能は GUI (画面) または属性ファイル (テキスト形式)、オプションから指定します。

- ・ シングルページ/マルチページ出力指定
- ・ 用紙サイズの自動認識指定
- ・ 出力 PDF へのセキュリティ設定や用紙回転などの編集機能
- ・ ログファイルの出力
- ・ ページ分割の指定
- ・ バッチ処理 (フォルダ単位の拡張子による一括変換)

制限事項

DTP3PDF の制限事項

- ・ 管理者権限を持たないユーザーで本製品を使用する可能性がある場合はインストーラに設定されているフォルダにインストールしてください。
- ・ 本製品は多重起動 (本製品を同時に複数実行) することはできません。
- ・ 本製品はログインされた状態で使用してください。ログオフ状態では正常に動作しません。ロック状態であれば動作します。
- ・ 本製品はサービス上で実行することはできません。また、サービス上で実行しているアプリケーションからの呼び出しにも未対応です。
- ・ 本製品は処理時に“通常使うプリンタ”を変更する場合があります。本製品使用時には印刷処理を行わないようにしてください。
- ・ インストールマシン以外のネットワーク上のマシンから、リモート呼び出しによる変換はできません。
- ・ SJIS で表現できないファイル名には対応しておりません。
- ・ 本製品が異常終了した場合には、属性ファイル (drv_in. atr) の内容が変わっている可能性がありますので再度実行する場合はファイルの内容を確認してください。また、アプリケーションがタスク上に残っている場合はタスクマネージャ等で終了させてください。
※タスク上に残る可能性のある、関連アプリケーションは以下のとおりです。
 - ・ infoProc. exe
 - ・ ProcTimerKill. exe
- ・ 変換対象ファイルの拡張子に関連付けされているアプリケーションから、KDdriver_long (PDF) for Windows へ直接印刷した場合に、正常に印刷を行うことが可能なファイルが必要です。印刷エラーやシステムダウンが発生する場合は、対応できません。
- ・ 本製品は弊社製品の KDprintdrv_batch、kddrvbatchc、KDdriver_long (PDF) for Windows を使用します。ご使用の際には、KDdriver_long (PDF) for Windows 操作説明書の注意事項もご一読ください。
- ・ KDdriver_long (PDF) for Windows のセキュリティ設定を行わないでください。
- ・ シングルページでの標準出力を行った場合、先頭の 1 ページのみが標準出力されます。
- ・ -0 で指定するフォルダは、既存のフォルダを指定してください。
- ・ 本製品の動作中に LOG ファイル等の関連ファイルへのアクセス (参照、コピー等) は行わないでください。
- ・ 属性ファイルで指定する拡張子と標準入力ファイルのファイル形式が異なる場合、正常に処理することができませんのでご注意ください。
- ・ 変換する文書ファイルにマクロ機能やパスワードの入力等で何らかのダイアログが表示される場合には変換処理が止まる場合があります。ダイアログ回避設定で対処するかマクロやパスワードを削除して再起動してください。

- ・用紙規定値コードは各プリンタドライバの用紙サイズごとに設定されている値であり、インストールマシンによって異なる場合があります(A3, A4, B4, B5 等は共通です)。複数のマシンで使用する場合は各マシンで設定する必要がありますので注意してください。
- ・WAIT で強制終了された場合、変換データに関連付けされたアプリケーションが起動されたままになることがありますので、手動にて終了させてください。
(例) DOC : WINWORD.exe
- ・ファイルを変換中に処理が異常終了した場合には、KDdriver_long の設定内容が変更されてる可能性があります。再度実行する前に、必ずKDdriver_long の設定内容を確認してください。
- ・Windows の OS を長時間(数ヶ月単位)再起動せずに使用すると環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用されるすべてのソフト・ドライバの複合要因であり、このような現象が発生した場合、原因の特定および回避はすべてのアプリケーションが関係するため、対応が不可能です。長期間連続運用を行う場合、上記の問題が発生することがありますので、定期的に Windows の再起動を奨励致します。
- ・DTP3PDF は 64 ビット環境で 32 ビットアプリケーションとして動作します。Office データ変換処理に使用するアプリケーションは、Office 2019, Office 365, Visio 2019, Project 2019 は 64 ビットアプリケーションに対応しています。それら以外では 32 ビットアプリケーションをご利用ください。
- ・Excel データの表示と DTP 製品で変換(印刷)した結果で、使用するプリンタドライバの解像度設定などが異なることにより、印刷範囲やセルの幅高が変更される場合があります。そのために文字列の改行位置や改ページ位置、縦横の縮尺が異なる場合があります。
- ・Excel ファイルを変換するときに環境にプリンタドライバが KDdriver しかない場合、出力先が変更できずにエラーとなる場合があります。その場合、KDdriver 以外のプリンタドライバをインストールしてください。
- ・Visio2003 ファイルを変換する際、正常に変換できない場合があります。正常に印刷できない場合は、一度 Visio ファイルを開きファイルメニューの印刷で印刷ダイアログを表示し、プリンタのプロパティ詳細設定の設定を行ってから、再度変換を行ってください。
- ・変換を行うマシンとは別のマシンで作成した、用紙サイズが A3 以上の Visio ファイルを変換すると分割されて出力される場合があります。
- ・ダイアログ回避後の処理で、スプールの再起動・スプールフォルダのクリーンアップ機能を使用する場合は、「Administrator」または「管理者として実行」で実行してください。
- ・ダイアログ回避後の処理の「スプールフォルダのクリーンアップ」機能は、スプールフォルダ内のすべてのファイルを削除するのでご注意ください。
- ・ファイル変換する文書ファイルの対象となる Office のアプリケーションは、事前に終了させておいてください。また、変換中にも Office のアプリケーションを起動することはできません。起動した場合には、エラーになる場合があります。
- ・PowerPoint のアプリケーションの初期表示をフルスクリーン表示すると、変換時にアプリケーションが画面上に表示されますので、フルスクリーンの設定をオフにしてください。
- ・変換する文書ファイルがインストールされている Office のバージョンと異なる場合は、上位のバージョンの Office をインストールしてください。ただし、バージョンの違いにより正常に変換されない場合もありますので注意してください。
- ・Office のアプリケーション上で発生したエラーについては対応していません。タスクマネージャから処理を中止してください。
- ・データの存在しないファイル(空のファイル)を変換することはできません。
- ・Word のファイルは、保存されているレイアウト(印刷レイアウト/アウトライン等)で変換されます。また、印刷ダイアログの「印刷対象」の設定が「文書」以外に設定されているファイルを変換した場合は、変換を行う際の設定(「印刷対象」=「文書」で固定)と異なるために変換結果が実際の印刷結果と異なる場合があります。
- ・ファイル属性のアーカイブ情報の設定がされていない場合には、変換されません。

- ・変換(印刷)中に処理を途中でキャンセルすることはできません。また、変換(印刷)中には、他のオペレーション等は行わないでください。エラーが発生する場合があります。
- ・Office 2003 以降で作成されたアクセス制限が設定されたファイルを変換することはできません。
- ・文書ファイルに「読み取り専用」の属性が設定されている場合には、属性を無効にする必要があります。
- ・Excel ファイルのページ設定の印刷品質が空白(通常はプリンタの解像度が表示)になっているファイルについては、変換時にエラーが発生する場合や正常に変換されない場合があります。エラーが発生した場合には、印刷品質の解像度を設定して保存してから変換を行ってください。
- ・Office 2007 以降の文書ファイル(docx, dotx, docm, dotm, xlsx, xltx, xlsx, xltm, pptx, potx, pptm, potm)を変換する場合には、変換対象ファイルを開くことが可能であり、印刷が可能であるバージョン(Office 2007 以降)がインストールされている必要があります。
- ・Excel ファイルを変換する際には、変換するシート名を指定することはできません。
- ・変換された PDF ファイルの内容については、変換を行った際に使用した各アプリケーションで変換時に使用した KDriver_long (PDF) for Windows で印刷した結果に依存します。変換結果に問題がある場合には、文書ファイルを各アプリケーション(Office 等)で開いて KDriver 経由で印刷を行い、変換されたファイルを確認してください。
- ・Office 2013 環境ではマルチページ画像が挿入されているファイルを変換することはできません。
- ・変換環境に複数の Office バージョンが共存している場合、動作保証できません。
- ・エクスプローラーでプレビューウィンドウの表示を設定していた場合、タスクマネージャに Office のプロセスが残ることがあります。そのため変換処理が停止することがあります。

Office による PDF 保存を使用する場合の注意点

- ・Word、Excel、PowerPoint、Visio は 2007 以降、Project は 2010 以降がインストールされている必要があります。また、「PDF または XPS」への変換機能が利用可能である必要があります。
※Office2007、Visio2007 では「PDF または XPS」への変換機能がインストールされていない場合があります。その場合は、ご利用の Office または Visio に対応した Microsoft PDF/XPS 保存アドインを、Microsoft Office のホームページよりダウンロードしてインストールしてください。
- ・変換後の PDF データの品質は、Office の PDF 保存機能に依存します。データ内の画像については、解像度の低下により品質が落ちる場合がありますのでご注意ください。

XPS データを入力データに指定する場合の注意点

- ・Windows 8 64bit、Windows 8.1 64bit、Windows 10、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016、Windows Server 2019 では「管理者権限でログイン」して実行する必要があります。

管理者権限のないユーザーで実行する場合の注意点

- ・入力データのフォーマットによっては、用紙サイズに適合する用紙がない場合に新規に用紙を作成しますが、管理者権限がないと用紙の追加ができない場合がありますので、入力データとサイズが異なる場合があります。
- ・属性項目「PORT_MODE_ON」の機能を使用して KDriver の「プロパティ」-「詳細設定」の「詳細な印刷機能を有効にする」項目を変更する場合、「Administrator」または「管理者として実行」で実行してください。
- ・Windows XP または Windows Server 2003 の環境で PowerPoint や Visio を使用する場合で、“登録されているすべての用紙から検出機能”を使用する場合は、「Administrator」、または「管理者として実行」で実行する必要があります。(PPT_PROC_MODE=1 や VISIO_PROC_MODE=1)

◆価格

製品名	概要	定価 (税抜き)
DTP3PDF	各種 DTP データを KDriver_long(PDF) for Windows を利用して PDF ファイルへ変換します。	35 万円

※DTP3PDF にはモノクロ版、カラー版はありません。